

帯状疱疹ワクチン予防接種を受けられる方へ 必ずお読みください

1. 帯状疱疹について

帯状疱疹は、過去に感染した水ぼうそうのウイルスが原因で起こります。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内（神経節）に潜伏（50歳以上の日本人は100%潜伏しているとデータがある）していて、過労やストレスなどで免疫が低下すると、ウイルスが再び活性化して、帯状疱疹を発症します。

体の左右のどちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが多数集まって帯状に生じます。発症すると皮膚の症状だけでなく、神経にも炎症を起こし、痛みがあらわれます。神経の損傷がひどいと、皮膚の症状が治った後も、痛みが続くことがあります。50歳以上で帯状疱疹を発症した人のうち、約2割は3か月以上痛みが続く帯状疱疹後神経痛になるといわれています。基礎疾患のある方は特に発症リスクが増大します。帯状疱疹のウイルスの感染で、水ぼうそうの免疫をもたない乳幼児等は、水ぼうそうを発症することがあります。

2. ワクチンの効果と副作用(50歳以上を対象としたワクチンです)

① 乾燥弱毒水痘ワクチン「ビケン」：以下、「生ワクチン」

生ワクチンの帯状疱疹予防接種の発症効果は、50歳代で69.8%、60歳代で64%、70歳代で41%、80歳以上で18%といわれています。ワクチン接種後の予防効果は、1年目では62.0%、2年目は48.9%、8年目は31.1%まで低下します。（海外で同じとされたワクチンのデータ）

主な副反応としては注射部位の赤み、かゆみ、熱感、腫れ、痛み、しこり、発熱などが報告されていますが、これらの多くは、通常3日間ほどで消失します。また非常にまれですが、重大な副反応として、アナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する血圧低下、呼吸困難や全身性のじんましんを伴うアレルギー反応のこと）や、血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、あおざがができる、出血が止まりにくいなど）、無菌性髄膜炎（発熱、吐き気、頭痛、うなじがこわばり固くなって首を前に曲げにくいなど）がみられることがあります。何か異常が認められた場合には、すぐに医師に申し出てください。

② 乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス筋注用」：以下、「不活化ワクチン」

不活化ワクチンの発症予防効果は、50歳代で96.6%、60歳代で97.4%、70歳代で91.3%、80歳以上で91.4%といわれています。発症の長期予防効果ですが、50歳以上の成人試験で、10年以上は80%程度の有効性です。

十分な予防効果を得るためには、2回の筋肉内注射（腕の三角筋）が必要です。

主な副反応は、注射部位の痛み、赤み、はれ、全身症状として筋肉痛、疲労感、頭痛、発熱を伴うことがあります。これらの多くは、通常3日間ほどで消失します。また、非常にまれですが重大な副反応として、ショックやアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する血圧低下、呼吸困難や全身性のじんましんを伴うアレルギー反応のこと）が起こる可能性があります。

3. 医薬品副作用健康被害について

接種により健康被害が発生した場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成14年法律第192号）及び田原市予防接種事故災害補償規程（昭和59年田原町訓令第9号）の対象となる場合があります。

4. 予防接種を受ける注意

- ① ワクチンの必要性や副反応について不明な点がある場合は、接種を受ける前に医師に相談しましょう。
- ② 受ける前日は入浴（またはシャワー）をして、体を清潔にしましょう。
- ③ 当日は体調をよく観察して、普段と変わったところのないことを確認してください。
- ④ 清潔な着衣をつけましょう。
- ⑤ 予診票は医師への大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。
- ⑥ 予防接種を受ける方が女性の場合、あらかじめ約1か月間は避妊しておきましょう。（生ワクチンのみ）

5. 予防接種を受けることができない方

<両ワクチン共通>

- ① 明らかに発熱（通常 37.5℃以上）している方
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ 過去にこのワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内に出現する血圧低下、呼吸困難や全身性のじんましんを伴うアレルギー反応のこと）を起こしたことがある方
なお、他の医薬品投与でアナフィラキシーを起こしたことがある人は、予防接種を受ける前に医師へ、その旨を伝え、判断を仰いでください。
- ④ 新型コロナワクチン接種後 13 日以内の人
- ⑤ 医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人。

<以下、生ワクチンの場合>

- ⑥ 先天性及び後天性免疫不全状態の人。例えば、急性及び慢性白血病、リンパ腫、骨髄やリンパ系に影響を与えるその他疾患、HIV 感染または AIDS による免疫抑制状態、細胞性免疫不全などによる。
- ⑦ 副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤等の治療を受けており、明らかに免疫抑制状態の人。
- ⑧ 妊娠していることが明らかな人。
- ⑨ カナマイシン、エリスロマイシンの抗生剤にアレルギー反応を起こしたことがある方
- ⑩ 輸血、ガンマグロブリン製剤を使用して 3 か月以内、ガンマグロブリンの大量療法投与後 6 か月以内の方
- ⑪ 他の生ワクチン（麻しん、風しん、おたふくかぜ等）を接種して 27 日以内の方

6. 予防接種を受ける前に医師への相談が必要な方

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの基礎疾患がある人。
- ② カゼなどのひきはじめと思われる人。
- ③ 予防接種で接種後 2 日以内に発熱、発疹、じんましんなどのアレルギーを疑う症状がみられた人。
- ④ 薬の投与または食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人。
- ⑤ 今までにけいれんを起こしたことがある人。
- ⑥ 過去に免疫不全と診断されたことがある人、及び近親者に先天性免疫不全の人がいる人。
- ⑦ 水痘・帯状疱疹を予防するワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある人。
- ⑧ 血小板が少ない方や出血しやすい方
- ⑨ 妊婦または妊娠している可能性のある方、授乳中の方
- ⑩ 最近 1 か月以内に予防接種を受けた方

7. 予防接種を受けた後の注意

- ① 接種後 30 分間は病院にいるなどして様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後 4 週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ③ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日は接種部位を清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。また、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤ 高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ⑥ 接種後 2 か月間は、妊娠しないように注意してください。（生ワクチンのみ）

<問合わせ先>

田原市役所 健康課 健康増進係 TEL 23-3515 FAX 23-3810
あつみライフランド 健康課 保健係 TEL 33-0386 FAX 33-0319